

令和3年度 三島市議会 福祉教育委員会 視察報告書

1 視察日程

令和3年10月5日（火）午前10時から
（Zoomを利用したオンライン視察）

2 視察先及び調査事項

ふらっと月ヶ瀬（静岡県伊豆市月ヶ瀬）
複合施設ふらっと月ヶ瀬の取り組みについて

3 視察参加委員

委員長	甲斐 幸博
副委員長	沈 久美
委員	野村 諒子
委員	岡田 美喜子
委員	鈴木 文子
委員	石井 真人
委員	服部 正平

4 報告内容

（1）概要

複合施設ふらっと月ヶ瀬（以下「ふらっと月ヶ瀬」）は、伊豆市月ヶ瀬にある旧月ヶ瀬小学校跡地に設立された認定こども園、デイサービスセンター及び就労継続支援B型事業所（以下「こども園等」）を複合的に備えた施設であり、静岡県で唯一の施設である。

ふらっと月ヶ瀬は、園庭を中央にこども園等が取り囲み、こども園、デイサービスセンター、就労継続支援B型事業所それぞれの場所から同じ園庭を眺めることができることで一体感を覚えるものであった。

「共に生きる新しいかたち。」というキャッチフレーズのもと、地域に根差

した垣根のない福祉を目指し、こども園等が日々運営している様子が見えたと。

質疑応答では、設立に至るまでの経緯、地元住民とのかかわり方、採算性に関する事などの質疑のほか、仮に三島市で同様の事業を行う際の注意すべき点に関する質疑に対しては、どのような事業が三島市のどの地区に必要であるのか行政と相互確認し、事業者も採算性を考慮して事業を推進していくため、事業用地の確保、補助の有無、職員確保の協力が必要である。行政と足並みをそろえていくことが事業成功の秘訣であるとの回答があった。

その他、細部にわたる説明及び質問に対する回答をしていただき、ふらっと月ヶ瀬の様子や事業内容等について、丁寧にご教示いただいた。



(2) 所感

(甲斐委員長) 4施設が集まる複合型福祉施設ですが、設立に当たっては、こども園保護者へ理解していただくまでに3年かかったとのこと、様々な苦労があったとのこと。今後も福祉サービスの中心的役割を果たしていただきたいと思う。

(沈副委員長) 複合施設・ふらっと月ヶ瀬のコンセプト「垣根のない福祉」に共感、三島でも実現したい。それは地域共生社会という新しい取り組みであり、古き良き村の姿でもある。子どもを真ん中に間近に声が聞こえる社会は明るい。

(野村委員) 地域の総合福祉拠点として廃校が有効活用されていることが、今後の公共施設の統廃合に伴う跡地利用のあり方として、大変参考になる施設である。民営化により民間の専門的なノウハウが生かされて運営されていることは利点であるが、人口の減少が進む中で利用者を増やすことには限界があり、安定した

運営費の確保が課題であると感じた。

(岡田委員) 幼老連携に加え障害者施設や地域交流を一体化した複合施設は新しい社会福祉の形といえる。事故やトラブル、感染症のリスク等デメリットはあるが、土地の有効活用やコストの削減、利用者にもメリットがあることが確認できた。

(鈴木委員) 子ども・高齢者・障がい者と共に地域の人々が集まり交流、敬老会・選挙会場・指定避難所の役割も、施設内相互交流や合同運動会、幅広い就労支援、年間3日休業のデイサービス希望者には夕食弁当や買い物支援も実施。

(石井委員) 「ふらっと月ヶ瀬」の取り組みは、三島市の複雑化する地域社会の問題を解決するためのキーとなる「地域共生社会」を考える上で、施設という場を中心に様々な人が交流するという点において参考にできる部分も多く、示唆に富んだ事業内容であった。

(服部委員) 幼児から高齢者・障害者が互いの尊厳を大事にし、個の持つ力を活かし共存していくこと、地域がそこに加わる包括的な取り組みは福祉の原点ともいえる。それをコーディネートする職員の思考は学ぶべき点が多くあった。

